評価要素 1 **2** 3 4 **5** **6** 7 8 9 10 **11** 12 **13** 14 15 16 **17**

評価対象者 小学校3年生

できることから１つずつ
～活動の出口でルーブリックを行って～

新宿区立西戸山小学校　　小野瀬 悠里

児童数	469名	教員数	３０名

本校は東京都新宿区の北側、戸山公園や戸山団地の周囲にある。大久保小学校から分かれた戸山小学校、そこからさらに分かれた小学校として 1947年に開校した。文部省（当時）指定建築モデルスクールとして建設され、1967年より「ユネスコ協同学校」に登録。

現在は、国籍など様々な背景をもつ児童が共に学んでいる。2020年度より 2年間は新宿区教育課題研究校として ＧＩＧＡ端末の活用を研究、区内に向けて発表を行った。区独自の仕組み「地域協同学校」を通して地域とつながり、各教科及び活動におけるゲストティーチャーとの連携、ユネスコボランティアの実践や書写指導・俳句指導の充実などが進められている。新宿区唯一のユネスコスクール。

ルーブリックについて

本実践は、すでに作成していた総合的な学習の時間の指導案、その評価規準にルーブリックの要素を当てはめる形で行った。付け焼き刃になってしまった部分はあるかと思うが、既存の小学校の学習、その指導体系（学習指導案）に「持続可能性」の視点をより具体的に盛り込むことができた。

総合的な学習の時間として単元計画を作る際には「自分たちで進める力」「未来につなげる力」を育てたい、という思いで年間計画を立てた。このプロジェクトに参加した上で振り返ると「5.問題解決能力（探究力）」や「17.持続可能なライフスタイルの実践」が当てはまる。

また、総合的な学習の時間として１年間をかけた単元だったため、本事業においては年間を通した評価実践でないと評価の意味がないのではないかと悩んだ。しかし部会の方に「出口（活動の終了時）だけでも見とる意味はあるのではないか」というアドバイスをいただき、今回はそれを実践することにした。

評価手法を適用した実践紹介

P4 ~ P7 参照

上記の通り実践の終末に児童へのアンケートを実施した。単元及び活動の詳細な点は、別途学習指導案を参照されたい。

単元のねらい

鉄炮組百人隊（地域の伝統行事）の保存や継承に携わる方々の思いにふれ、それらを通して設定した課題解決への取り組みを通して、地域参画の気持ちや、郷土を愛する気持ちをもつことができる。

指導者の思い、願い

❶ 総合的な学習の時間を進めていく基礎となる「探究的な学び（のサイクル）」を身につけてほしい。
具体的には、児童が自分たちで決定し、自分たちで振り返っていく活動の経験を積んでほしい。
❷ 地域のもの、ことを大事にしている方の思いにふれることを通して、地域に対する愛着という感情そのものを知ったり、それを尊重したりする態度を身につけてほしい。

以上のような教師の思いや願いを実現し、かつ実践の中で生まれた児童の思いや願いを実現していくために評価手法研究で学んだことを意識し、最終的なアンケートにつなげた。
児童に対しては、発達段階や学級の実態を踏まえた上で、指導過程でルーブリックの要素を伝えることはしなかった。最後のアンケートでのみ項目に出会ったことになる。

児童の変容

アンケート項目及び結果は以下の通りである。

評価要素	「がんばった」「できるようになった」こと	児童自己評価 平均（3点満点）	「一番がんばった」 項目
2	ア　何かを調べたり、まとめたりする力	2,53	50%
5	イ　課題を自分たちで見つけて、自分たちで解決する力	2,12	9%
6	ウ　自分と周りの意見の違いに気づく力	2,56	19%
11	エ　考えが違っても、相手を大事にしようとする力	2,46	19%
13,17	オ　未来のことも考えながら決めようとする力	1,78	3%

児童からは「自分と周りの意見の違いに気づく力」に対する肯定的な評価が最も高かった。反対に、「未来のことも考えながら決めようとする力」が最も低かった。
また「一番がんばった、できるようになった」と感じているのは「何かを調べたり、まとめたりする力」であった。

実践を通しての考察、発見、感想

単元の活動を振り返って

単元づくりの際にキーワードとした「自分たちで進める力」については、かなり意欲・技能が向上したと捉えている。総合的な学習の時間の中でもそれ以外（教科の授業、学級活動や校外学習）の時間でも、自分たちで司会を決めて進めるなど多数決に固執せず合意形成を目指そうとする姿が増えた。
しかし、担任の見取りとルーブリックの結果は食い違った。「イ　課題を自分たちで見つけて、自分たちで解決する力（項目番号 5と捉えている）」は、児童の自己評価としても下から２番目の位置にあった。たくさん挑戦したからこそ客観的に難しさを感じているのか…というのは担任の贔屓目が過ぎるだろう。何にせよ「育てたい」と思った項目に対する児童の自己評価が前向きでなかったのは残念である。

評価手法について

同じ職場の方からは、本実践に関して多くの支援をいただいた上で「パフォーマンス評価が必要なのではないか」「ルーブリ

ック項目は言い続けてもよかったのではないか」という 2つの意見をいただいた。

１点目の「パフォーマンス評価の必要性」についてさらに詳細に述べると「自己評価だけでなく他者評価も必要ではないか」という意見である。実際ルーブリックに表記される言葉は、教師が噛み砕いた表現をしたつもりでも曖昧で、観念的になってしまった部分がある（解決、未来、など）。その課題を解決するには、日々の見取りや報告会といった場で、児童それぞれにどのような行動が見られたか、こちらでパフォーマンスを見とって記録したり、児童本人にその価値を伝えていったりすることが非常に重要であると考えた。

２点目の「ルーブリック項目は言い続ける」については「児童に価値観として落とし込みたいのであれば、常に言い続けるぐらいがちょうどよかったのではないか」という意見だ。これもその通りであると感じていて、発達段階を考えたからこそ、何が問題解決で何がメタ認知で何が持続可能性につながるのか、活動を価値づける中で教師の方から伝えていけばよかった。そして、それを実践するためには教師がきちんと価値項目を認識していなければならない。お恥ずかしい限りだが「未来のことを考えて決める」のアンケート文言などは、非常にとってつけたものであった。「正直、期待してる数値は出ないと思っていた」という率直なコメントもいただき、反省するばかりである。

ルーブリック評価について

難しいけれど、やる意味はあるなと感じた。「指導と評価の一体化」という言葉をこれまでもよく聞いてきたが、ルーブリックに挑戦をすることで、かなり具体的に「指導と評価の一体化」を実現できるのではないか。

改めて気づかされたのは「ルーブリックは学習者が活用するだけのものではない」ということだ。特に「指導者が作るルーブリック」においてこそ、活動の方向性に迷った時にルーブリック（評価指標）があることで、自分が指導者として何を願っていたか、児童の何を育てたくて実践を進めていたかを見つめ直すことができた。その項目の中に「持続可能性」という願いがあることもまた、今後非常に有用な視点になると考える。

別のところでも書いたが、研究の余地は多いにあると思うので、今後も実践・情報交換を重ねることで、普遍性や汎用性を高めていく。

終わりに

今回の実践を総括すると「できることから１つずつ」に集約された。ルーブリックの視点を途中から取り入れたことで、あれもこれもと迷うことが増えたような時期もあった。しかし、だからこそ目の前の児童と向き合う中で、この子たちにどのような学びを残せるだろう、残したいのだろうと自問するきっかけになった。大切にしたいねらいや価値観を振り返ることを通して、児童にとっても指導者にとっても思考の流れに無理がない活動を展開していきたい。そのためには、1つずつの成果、成長を大事にしていこうと改めて思わされたのが、今回の実践を通した教師の学びである。

付け焼き刃は所詮付け焼き刃だった、という悔しさは残る。思い通りにはいかなかった。ただ、刃を取り付けることはできた。使える刃になるよう磨いていく。

評価手法開発にあたり参考にした文献・書籍・教材

- ACCU（2020）「変容につながる16のアプローチ -SDGsを活かした学校教員の取組 -」
- ACCU（2021）「変容を捉え、変容につながる評価のカタチ -SDGs時代を生きる学校教員の知恵 -」

問い合わせ先

学校名	新宿区立西戸山小学校
氏名	小野瀬 悠里
電話番号	03-3227-2107
住所	東京都新宿区百人町4-2-1
メールアドレス	htb.yuri@gmail.com

第３学年　総合的な学習の時間　学習指導案

令和３年７月７日（水）

新宿区立西戸山小学校　第３学年２組

指導者　　小野瀬　悠里

１　単元名　　つながれ！　鉄炮組百人隊

２　単元の目標

鉄炮組百人隊、大久保つつじの保存や継承に携わる方々（主としてゲストティーチャー浅井さん）の思いにふれ、それらを通して設定した課題解決への取り組みを通して、地域参画の気持ちや、郷土を愛する気持ちをもつことができる。

３　単元の評価規準

（実社会・実生活で活用できる）知識及び技能	（実社会・実生活で活用できる）思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
・身近な地域において、人々が関わり合いながら生活が成り立っていることが分かる。 ・学区域には、古くから伝わり受け継がれている文化があることが分かる。	・対象との関わりを通して課題に気づくことができる。 ・課題解決に向けて、手段を選び、情報を収集することができる。 ・自他の意見や資料を比べて、それぞれの相違に気づくことができる。	・目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする。 ・探究的な活動を通して、進んで身近な問題の解決に取り組もうとする。

４　単元の内容

【探究課題】町の伝統文化。その保存、継承に携わる人々の思い

本校は「新宿区百人町」にある。百人町の地名の由来は、この地に「鉄炮組百人隊」の駐屯地があったことによる。鉄炮組百人隊は、江戸幕府が西からの脅威に備えて駐屯させた兵である。その駐屯地は非常に広く、明治政府の世になってからはその敷地を陸軍戸山学校、練兵場として利用していた。現在本校にも「陸軍省所轄地」の碑が残っているなど、この地域、学校の郷土史を紐解く上で鉄炮隊は欠かすことのできない存在である。

「鉄炮隊百人組」は、1959 年に設立された「鉄炮隊百人組保存会」の有志によって受け継がれている。2 年に１度「出陣」を行い火縄銃の実演を行ったり地域行事に参加したりするなどして、その文化を継承してきた。本年度は出陣の年であったが、感染症防止の観点から中止となっている。

児童には、自分たちが住んでいるところならではの文化を知るだけでなく、そこに携わる方々の思いを知ってほしい。そのことを通して、社会参画の意識を育てたり、物事を自分のこととして捉える考え実行する体験をしたり、土地に受け継がれる文化を大事にしようとする郷土愛を育むきっかけとするなど、多面的につながる学びとしていきたい。

5　研究との関連

新教研　生活・総合部における前年度までの研究の成果を、以下のようにまとめた。

【研究主題】 生き生きと学び合い、思いや考えを深める児童の育成 ～主体的・対話的で深い学びを実現する教師の役割～

学習指導要領解説で示されている深い学びの姿		
知識、技能が関連付けられて概念化する	活用場面と結びついて汎用的なものとなり、多様な文脈で使えるものとなる	児童が手応えをつかみ前向きで好ましい感覚を得ることで、安定的で持続的な意思を涵養していく

これまでの研究でわかってきた深い学びを実現する手立て (総合的な学習の時間)	対象への思い入れ、愛着をもたせる	思いを引き出す	対立、拮抗のきっかけを逃さない （思いをぶつけ合う）
本単元で取り入れる具体的な手立て	・繰り返し調査を行ったり、対象と出会ったりできるようにする。 ・シンプルな問いを共有する。 ・自分の立場を明確にできるような問いを立てる。 ・自己決定、自己解決体験を重ねていく。		

6　単元の指導計画

	学習活動　　・予想される児童の反応	※指導の留意点
０次	総合的な学習の時間の基本的なサイクルを知る。	※「総合は、自分たちで作っていく学習」ということを、教師を含め学級で共有したい。 ※総合学習チームを編成する。
１次 （約１５時間）	①探究課題と出会う「大久保駅　鉄砲隊の壁画」 町たんけんを振り返りつつ、大久保駅にある鉄砲隊の壁画の存在を知り、疑問を出し合う ・なぜ鉄砲を打っているのだろう ・この壁画は、いつ書かれたのだろう ・この壁画は、どうして描かれたのだろう ・この壁画は、誰が書いたのだろう 【この壁画、なんだ？】 ②疑問を解決する手段を整理し、解決方法を検討する。 ・ネットで調べる　・本を探す　　・人に聞く	※Microsoft Teams を活用する。 →「総合」クラスフォルダの作成。 →板書、ワークシート、小さな発表を Teams で共有。 ※②③の活動を、家で調べるなど授業時間外の時間を含め繰り返す。(③の内容は仮定。児童の

	③提案された解決方法での成果を共有し、新たな課題設定を行う。 ・描かれているのは鉄炮組百人隊らしい。 　→それは何？　→今もあるの？ 　→誰がメンバーなの？ ・保存会という人たちが書いたらしい 　→新宿区の組織？　　→何人くらいいるの？ ④探究を進める中で、鉄炮隊に関わる地域の人への取材を行う ・校長先生なら知っているのでは。 ・スクールコーディネーターの方なら、もっと知っているのでは。 ⑤浅井さんの存在にたどり着く	実態に応じる） ※課題を見つけ、調べ方を考え、成果を共有した上で新しい疑問を共有したり課題を立てたりする。（小さな“探究のサイクル”を回す） ※取材、という活動へ焦点化できるようにする。 ※取材を受けるであろう方と連携し、浅井さんの情報が出るようにしていただく。
２次 （約１０時間））	「浅井さんは、なぜ鉄炮隊に関わっているのだろう？」 ①浅井さんへの取材準備をする ・どんなことが聞きたい？ ・ネットやお家の人の情報だけでは分からなかったことはなんだろう。 ②　浅井さんに来校していただき、取材する ③　結果をまとめ振り返る ④　新しい課題へ。	※可能であれば、鉄炮隊の装束をお願いする。 ※児童の盛り上がり方や学習過程を踏まえて、大久保つつじの話題を出すか否かをゲストティーチャーと打ち合わせる。
３次 約４０時間	「つながれ！　鉄炮組百人隊！」 ・活動Ａ案 「コロナ禍で練り歩きができない鉄炮隊のために、地域へ存在を広める」 ・活動Ｂ案 「下級生に劇などを通して鉄炮隊のことを伝える」 ・活動Ｃ案（第４次の可能性） 「鉄炮隊と関係が深いつつじへ進む」	※児童の思いのピークがここにあるようにしたい。

７　本時の指導（８／７０時）

	○主な活動　・予想される児童の反応	※留意点

課題の把握	◯題材への思いを確認する。 ・もし会えるなら、ふだん何しているのか聞きたい。 ・てっぽうをうてないだろうか。 ・よろいの本物を見てみたい。 ◯前時に立てた問いを確認する。 本物の鉄ぽう組には、どうしたら会えるのだろう	
調べる （考える） 予想する	◯課題を解決するための方法を出し合い、短冊に書きあう。 ・インタビューを分析する。答えてくれたどの先生なら本物を知っているのか。 ・Teams をもっとくわしく見たい ・保育園の先生が銃を撃ったことがあるはず。 ・友達がもってきた封筒の住所を調べたい。 ・前の校長先生は馬に乗っていたのだから本物として撃っているのでは。 ◯全体で、考えていることを共有する。	※必要に応じて、全体で進めるか、小グループで進めるかを切り替える。 ※必要に応じて、教師が分類整理を進める。
まとめる 見通しを立てる	◯次時の見通しを立てる ・たくさんアイディアが出たから、しぼっていく必要があると思う。 ・全部できそう。自分はインタビューの担当がいい。 ・全部やるなら、次は担当を決めていく必要がある。	※多くの意見が出る段階で授業が終わるかと予想している。 ※板書を Teams に記録する。